



【鈴木さとしのプロフィール】

- 岩手県出身 新潟大学法学部卒業
（株）第一経営相談所勤務 行政書士
- 現在、市議6期、党市議団長、総務常任委員会委員
- 主な活動地域 塚越2・3・6・7丁目
中央1・3・4・5丁目

やまわき紀子議員の一般質問項目

- ◆発達障がい児支援と保育
- ◆特別支援教育の推進を
- ◆市立病院にユースクリニックを設置することの意義
- ◆「子育てするならわらび」保育行政の推進（新年度の申込者数と不承諾者数・子育て短期支援事業）



命と健康を守る拠点・市立病院の建替えを

鈴木 医療需要の見通し、市立病院の救急受け入れ数と分娩数は。

病院事務局長 超高齢者社会を背景に2025年と2050年の比較で一日当たり入院 71 人増、外来186人増が見込まれる。令和6年度の救急搬送件数は854件、同年度の分娩数は184件。

鈴木 市立病院の地域における必要性について見解はどのようか。

病院事務局長 市内唯一の救急医療機関であり、災害時や感染症対策など、市民の命と健康を守る拠点。外来は紹介状なく受診できる等の利便性を身近に感じてもらうため、塚越・南町への送迎等、サービスの充実を図り、喜ばれ必要とされる病院をめざす。

鈴木 経営改革は重要な課題であり、今後も質問していく。ところで、万一、市立病院の経営が成り立たなくなれば、大きな医療の空白が生まれる。新たな魅力的な病院をつくることとともに、経営改革をすすめること、全体の財政運営の中で事業を支えることもあわせて進めてほしい。

にぎわいと活力のあるまちを

鈴木 中心市街地活性化プラン推進における課題について認識は。

市民生活部長 駅西口再開発や駅前通り、中山道の拠点整備を計画的に進める。回遊性と活性化のため、空き店舗解消や既存店舗の伴走型支援等にも力をいれ、中心市街地を下支えする商業や都市機能の強化、担い手の育成等、一体的事業展開に努める。

鈴木 回遊性のための「にぎわい交流拠点」の役割や連携、推進体制等はどのようか。

市民生活部長 西口再開発で新たな集約拠点が形成されることに連動し、官民連携の整備事業で中山道エリアに新たな賑わいを創出。西口周辺と駅前通りを結ぶエリアの回遊性を高め、まち全体の活性化・にぎわい創出をめざす。民間機能施設の高い集客力を回遊性に最大限生かす。地域との連携や管理運営事業者によるまち探検等検討するが、企画力・運営能力のある管理運営事業者を令和8年度中に公募し決定する。市民の声を聞きながら連携協力をすすめ、利用状況や事業実施の把握・検証を通じ継続的運営に努める。

厳しい環境を乗り越え 移転・建替えの推進を

市立病院会計予算の附帯決議に対する討論で表明した日本共産党市議団の見解（概要）を紹介します



蕨市立病院は年間900件もの救急搬送を受け入れ、採算が難しい分野で大きな役割を担う等、蕨にとって必要な存在であることは言うまでもない。一方で、病院経営の難しさや建築費の高騰が全国的にも問題となっている。

こうした中、基本設計では様々な市民要求を盛り込みながらもコスト低減を図った構造形式を採用し、医療需要の変化に対応できる工夫

なども行われてきた。現場の声を生かした「経営危機打開プラン」では医師や医療スタッフの実践が始まっている。頼高市長の下で、市財政の健全化とともに公共施設の耐震化等も進められてきた。

蕨市議会は、市立病院の重要性と今日の困難な状況の両面から事実即した議論を行うことで、移転・建替え事業がふさわしく進むよう役割を果たすべき。日本共産党市議団も力をつくす決意を表明する。

健康を守る いのちと 市立病院